

<総括>

試験時間	90分	総解答字数	1140字
------	-----	-------	-------

猪木武徳『自由と秩序—競争社会の二つの顔』(中公文庫、2015年)を用い、人間と社会にとっての競争の持つ意味と競争の適正性の確保について多角的な評価システムという観点から考えさせる出題である。過度な競争による「ゆがみ」や不正といった現代社会が直面する諸課題について文中の視点から考察することを求めるという、名古屋大学法学部によくみられる出題となっている。なお、今回の出題は前年の11ページから10ページへと減少しているものの、説明問題が2題設定され、論述問題では具体的な事例を想定することが求められるなど、必ずしも取り組みやすいとは言えない出題であった。

<課題文の分析>

大問番号	
内容 (主題)	過度な競争社会における多角的評価システムの意義
出典 (作者)	猪木武徳『自由と秩序—競争社会の二つの顔』 (中公文庫、2015年(2001年に中央公論新社から刊行された同名の書を文庫化したもの))
長短・難易等 前年比較	長短(短い・ やや短い ・変化なし・やや長い・長い) 難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント(設問内容・論述ポイントなど)
	課題文型	学部系統的	問1	説明	240字	下線部「生存と遊戯という二つの意味で競争が人間と社会にとって重要であるにもかかわらず、競争の徹底がいくつかの危険性をはらんでいる」とはどういうことかを説明する。下線部前に示された2つの「問題点」だけでなく、その前に論じられている人間にとっての競争の重要性にも言及したい。
			問2	説明	300字	下線部「現代民主主義の下では、こうした多角的評価システムを創り上げることはなかなか難しい」と筆者が考える理由を説明する。下線部直後の「現代民主主義のいくつかの特色」とともに、下線部前の競争が人間の二つの矛盾する本源的性向に根差していることについても触れたい。

※出題形式は「テーマ・課題文(英文を含む場合は付記する)・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント (設問内容・論述ポイントなど)
	課題文型	学部系統的	問3	論述	500～600字	社会における競争を過度に刺激したために「ゆがみ」や不正が生じていると考えられる具体例を設定し、その競争において適切さやバランスを保つためには、どのような評価・報酬の制度を創り、どのように運用すればよいかを論じることが求められている。文中に論じられている競争が孕む危険性や多面的評価システム構築の難しさを具体例に反映させることが必要である。具体例としては、経済的効率性や生産性に基づく評価システムから取り残された農林業の課題や、多様なライフコースを提示することが求められている教育制度の在り方、デジタル社会のなかで巨大企業が生み出す「ゆがみ」等が想定できよう。

<答案作成上のポイント・学習対策等>

名古屋大学法学部の小論文は、個人の自由や権利、格差をめぐる議論など、社会のあり方そのものをめぐる議論を取り上げ、現代社会や政治経済といった公民分野の教科書に取り上げられている項目と、実際の政治や経済における出来事とがどのように結びついているのかを考えさせる出題が続いている。そのため、日ごろから新聞やニュース解説などをチェックして、自らの社会問題に対する感覚を養っておく必要がある。

また、名古屋大学法学部の課題文は、法律や政治といった領域にとどまらず、今回のように社会・経済的な内容を取り上げる場合がある。そのための学習対策としては、他の国公立大学の法政治系の過去問とともに社会学や経済学系統の過去の出題例にも目を向けることが必要であろう。